

俳句アンソロジー 多摩川春秋

風光るキルトの中の鳥の舞

ハピ

新しき曲にいどんで柿若葉

号

涼新た蠍座の尾の先までも

悠

なにもかも網笠の中風の盆

百合子

観音の在す岬や秋の航

涼

嬉しさよ闇を葬る虫送り

幸子

人住まぬ社の奥に秋日落ち

朝海

生乾きのカーテン吊るす秋日和

てま里

足もとの敷石見えず秋の暮

弥生

界隈を押し月下の触太鼓

白崔